

社会の教科書の使い方

1. 各教科書が設定している構成や流れを確認しましょう。

現在発行されている教科書には、もくじなどの内容構成の説明とあわせて、冒頭部分にその教科書が意図する紙面構成や学習の流れが学習者自身にもわかる表現で示されている見開きページ（以下、「教科書の取扱説明ページ」）が設定されています。学習者自身で読むことができる資料ページではありませんが、授業時の教科書の活用度合いにかかわらず、適切な指導を行うことでより教科書のもつ学習効果を引き出すことができます。

もちろん、社会科授業では各地域教材をはじめ、適切な教材研究などに基づき授業改善を図ることは重要なことです。しかし、日々の業務に追われる中で、学習指導要領やその解説編で示されている内容や見方・考え方をどの分野や内容でも完璧に理解して、実践に結びつけることは誰にでもできることではないでしょう。それに、教科書に記載されている指導方法や資料などは改訂の度に更新されており、全生徒に配付される主たる教材であることを考えれば、授業者が教科書上の様々な工夫を読み解くこともまた重要であることは説明するまでもないでしょう。

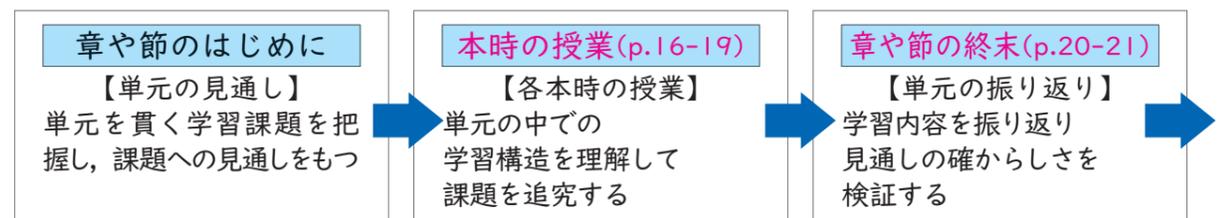
また、教科書には学習者に向けた「教科書の取扱説明ページ」があるわけですが、教員向けには教科書編修趣意書もあわせて確認することが必要なことはあまり知られていません。教科書会社によっては、教科書で用いられている記号やマークなどの隠れた意図や指導上の留意点を踏み込んで説明しているものもあるためです。

こうした点を踏まえ、本書はいわゆる若手の先生が教科書の特性を理解できるとともに、教科書を普段あまり使わなくなっている中堅やベテランの先生方にも、教科書の特性を改めて見つめてもらうことができるように解説を展開していきます。

2. 教科書の全体の構成を把握しましょう。

(1) まず「単元ベース」で授業を考えましょう

今回の学習指導要領改訂から、単元ベースの学習構成が重視されています。これまで単元ベースで考えることは意識されてきたことですが、単元での学習の流れを示す工夫があることを学習者に示すことが大切です。



(2) 本時の学習展開について～本時見開き1時間の紙面構成～

本時の授業紙面では、いわゆる「門形」の構成が採用されており、各スペースには役割が割り振られていることが多いです。

- ①左上スペース：導入資料
- ②右上スペース：本時の学習課題を深めたり、広げたりする資料やコラム
- ③両サイドスペース：学習課題や補助資料（統計、言葉の定義など）
- ④見開きページのまとめ方



3. 教科書を活用する上で、特にポイントとなるところをおさえましょう。

(1) 教科書見開きの使い方（地理的分野 p.16-17・歴史的分野 p.18-19）

生徒たちは小学校時代に学習問題をつくる学習活動を積み重ねてきています。中学校でも学習問題をつくる学習活動を行うこともありますが、授業時数には限りがあることや深い学びにつながる学習課題を生徒たちがつくり出すことをすべての単元や本時で行うことは難しい面があります。そうした制約の中でも本時の学習課題に近い資料を提示して導入活動を行い（資料★1）、そこでの教師と生徒との対話や資料の読み取りなどを通して、本時の学習課題（資料★2）につながるように構成されています。また、周辺にある資料は本文と対応していることから、学習課題の追究や資料活用の技能を高めるといった目的や意図を踏まえた学習につなげることが大切です。

16～19ページでは、地理的分野と歴史的分野の教科書見開き2ページ分の事例を示し、具体的に教科書がどのような意図で資料を配列し、その展開の仕方などについて具体的に解説をしています。

This section provides a detailed analysis of textbook layouts with callouts explaining key features:

- ★1 (Top Left):** Introduction materials are presented to guide the student's focus on the main learning objective.
- ★2 (Middle Left):** The main learning objective is highlighted, and the student's role in pursuing it is explained.
- ★3 (Bottom Left):** The lesson's learning objective is presented, and the student's role in pursuing it is explained.
- ★4 (Top Right):** The role of the materials is explained, emphasizing the student's role in pursuing the learning objective.
- ★5 (Bottom Right):** The student's role in pursuing the learning objective is explained, emphasizing the use of various materials.

A summary box at the bottom states: 各資料は教科書本文と対応します。教科書本文を資料と関連付け、学習課題の追究に効果的に活用する視点を示しています。

(2) 地理的分野・歴史的分野のまとめのページの使い方 (p.20-21)

見開き例に続いて、単元のまとめ（振り返り）のページの活用方法を解説しています。本来は（左頁で説明した通り）、単元の見直しを受けて本時が展開した上で単元の振り返りになりますが、紙幅の都合上振り返りのページのみ示しています。地理的分野でいえば「世界の諸地域」には地球的課題の視点が組み込まれていたり、「日本の諸地域」学習ではその地域の特色を端的に示す地理的な事象を中核として内容構成されていたりします。まとめの場面ではそれらの視点や事象を羅列的に学習するのではなく、社会的事象の意味や特色、社会的課題をとらえ、その解決に向けた社会への関わり方を見方・考え方を適切に使って考えられているかを振り返ったり、前の単元との関連性や比較を行ったりすることが大切です。ここでは、まとめのページの使い方を効果的に用いたり、様々なまとめ方の工夫を解説したりしています。

This section explains how to use the unit summary page with callouts:

- Callout 1:** The learning activities on the summary page are explained, emphasizing the student's role in pursuing the learning objective.
- Callout 2:** The student's role in pursuing the learning objective is explained, emphasizing the use of various materials.
- Callout 3:** The student's role in pursuing the learning objective is explained, emphasizing the use of various materials.

A summary box at the bottom states: 教科書には紙面上の制約があるため、十分に地域や既習事項などの特性を活かしたまとめの活動になっていないように感じることもあるはずですが、少しでも各教科書が意図するまとめの活動を読み解く一助となるよう、様々な面から解説を展開しています。

社会の教科書の使い方

展開部分の活用のしかた

★ 導入資料の活用

本時の学習課題につながる資料が示されています。資料の意図を読み取ることが大切です。既習事項や生活経験などと関連させながら、関心や疑問をもたせませす。

ここでは、瀬戸大橋と架橋前後の交通機関の写りが示されています。交通機関の変化が移動時間や利便性の変化につながることに気付かせましょう。身近な地域で新しい道路ができた時のことを思い出させるなどしながら、★2の学習課題を疑問としてもてるようにします。

★ 学習課題の提示

★1の資料をもとに、見開きページの学習課題を明確にします。その際、単元の1時間目で立てた単元を貫く学習問題との関係性も明確にします。学習課題には、地理的な見方・考え方につながる視点が組み込まれています。「どのように」という学習課題の表現に着目させ、視点をを使って見通しを立てさせます。

ここでは、「中国・四国地方での交通網や通信網の整備が、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」という単元全体の学習問題のうち、交通網と人々の生活の部分を追及します。★2の学習課題に交通と人々の生活が視点として組み込まれています。「どのように変化した」という表現から、橋や高速道路の開通と生活の変化との関連に着目させ、見通しを立てさせます。

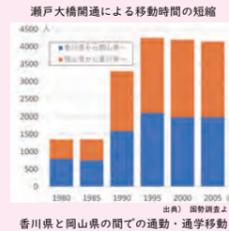


★ 海をまたぐ本四連絡橋（瀬戸大橋）と、高松港を出発するフェリー

★2 交通網の整備と人々の生活の変化



区間	区間	区間
瀬戸大橋	高松自動車道	徳島自動車道
高松自動車道	徳島自動車道	高松自動車道
高松自動車道	徳島自動車道	高松自動車道
高松自動車道	徳島自動車道	高松自動車道



★3 本四連絡橋や高速道路の開通によって、人々の生活はどのように変化したのだろうか。

高速道路網の整備と本四連絡橋の開通 中国・四国地方を構成する山陰・瀬戸内・南四国の3つの地域は、それぞれの中央に山地や海が横たわり、以前は地域間の移動に時間がかかっていました。

しかし、1970年に開通した中国自動車道をはじめとして東西、そして南北をつなぐ高速交通網が整備されはじめ、1988年には海をまたぐ本州四国連絡橋の一つである瀬戸大橋が開通し、その後も整備が進められました。現在では、県庁所在地や主要都市が高速道路で結ばれるようになり、瀬戸内海を挟んだ県庁所在地である岡山市と高松市との間は、以前は鉄道や自動車とフェリーを乗り継いで2時間近くかかっていたのが、1時間で移動できるようになりました。海を越えて通勤や通学をする人が増えました。

山陰と瀬戸内を結ぶ浜田自動車道や米子自動車道、南四国と瀬戸内を結ぶ高知自動車道などの整備も進み、高速バスが走るようになると、山地をこえて通勤したり、買い物や観光に出かけることが増えたりするようになりました。

★3 資料の活用1

資料（地図やグラフ、写真など）の読み取りから、★2の学習課題を追及させます。資料のタイトルや本文の内容を参考にしながら、生徒に読み取ってほしい資料の内容を明らかにしておくことが大切です。

ここでは、上から2番目の表のタイトルから移動時間の変化を、3番目のグラフから急に人数が増えていることを、本文から瀬戸大橋の開通年を生徒に読み取らせることが意図されています。読み取らせた内容から、架橋による交通の速達性、定時性、安定性などの向上が、人々の生活に変化をもたらしていることに気付かせます。

※★数字は、内容を活用していく順番(指導の流れ)の例を示しています。

★4 【コラム：海霧にかすむ瀬戸内海】



瀬戸内海は、陸地に囲まれているために湿った空気が溜まりやすいところです。特に4月から6月にかけては霧が多く発生し、視界が悪くなります。そのため、船どうしの衝突や単独衝突、岩や浅瀬への乗り上げ、船体喪失（船の位置を見失うこと）といった「霧海難」が発生しています。

瀬戸内の島の変化 瀬戸内海にはたくさんの島があり、多くの人々が生活しています。橋が開通して自動車やバスで移動できるようになった島の人々は、フェリーの時刻や悪天候を心配することなく、通勤・通学、買い物や通院などができるようになりました。一方で、フェリーの利用者が減少したことから多くの航路が減便になったり廃止になったりしたため、自動車を持たない人や、橋でつながっていない島の人々は、かえって不便になってしまう面もありました。このような課題に対応するため、生活用品を移動販売する船や、医療設備を備えた診療船などが活躍しています。

交通網の整備による地域の変化 本州四国連絡橋は、中国・四国地方の中を結ぶだけではありません。明石海峡大橋の完成によって開通した神戸・鳴門ルートは、四国地方と近畿地方を直接結んでいます。徳島と大阪・神戸との間の移動時間が短くなり、多くのバス路線が新設されると、観光や買い物でたくさんの人々が行き来をするようになりました。地方にも観光客がたくさん来るなど、地方の人々の生活が便利で豊かになった面がある一方で、地方の商業が落ち込んで困る人も出てくるという面も現れてきています。

★7 確認しよう 中国・四国地方で整備された交通網を整理しよう。
説明しよう 中国・四国地方で交通網が整備された結果、人々の生活がどのように変化したか、考えてみよう。



★5 瀬戸内海の島に向かう移動店舗車

船での移動販売は、島の人々に港まで来てもらう必要がありますが、高齢者などには難しい面もあります。島の中を回る移動販売車が活躍し始めています。



★4 コラム的なコーナー

トピックを紹介するコラムが掲載されていることがあります。学習課題につながる内容のもの、その地域の別のトピックを紹介して知識や見方・考え方を広げていくようなものなどがあります。コラムの意図を踏まえて活用しましょう。

ここでは、交通の内容に関連したものが示されています。海霧の発生で連絡船が欠航になると、移動が困難になります。瀬戸大橋架橋後に瀬戸内海をまたいだ通勤・通学者が増えたという本文の記述と合わせ、学習課題につながる内容になっています。

★5 ★6 資料の活用2

資料の掲載スペースには限りがあります。教科書会社のHP、副教材（資料集）や新聞、インターネット上の資料等も活用しましょう。

★5の写真は、不便になった島があるという課題への対応事例ですが、他にもわかりやすい事例や新しい解決策を示す資料を見つけましょう。

★6のグラフをもとに、最新のデータや、新たな出来事などを示すことで、生徒の関心を高められます。

★5 まとめ、ふり返り、発展

学習課題について、結論だけでなく理由も含めて考えさせ、説明をさせましょう。その際には、見開きページ全体をふり返り、地理的な見方・考え方や視点をもとに複数の事実のつながりを意識しながら、学習内容を確認させることが重要です。

ここでは、交通と生活の関係を視点とし、見開きページ全体の内容を整理させます。瀬戸内の交通網整備による交通機関の発達・変化や移動時間の短縮という理由から、通勤・通学の範囲拡大、観光や買物等の活発化などで生活が便利で豊かになった人がいる一方で、買い物客が減って困ったり、フェリーの廃止で生活が不便になったりした人もいることを、結論として説明できるように指導します。

展開部分の活用のしかた

★ 単元を貫く学習問題の把握と、課題の見通しの設定

節の問いが単元を貫く学習問題に対応しています。

ここでは武士が政権を立て、社会を動かすまで成長した理由(要因)についての問いが設定されています。この問いに答えることで見通しがもてることになります。

★ 導入資料の活用

本時の学習課題に関する資料が掲示されています。学習に興味関心を持たせるとともに、既習事項や他の資料と比較させ、特徴的なことを見つけ出す問い(右の例では共通点や相違点を見つけ出す問い)を発することが大切です。

ここでは、武器を持った人に着目させることで、警護しているという共通点や服装、地方(上図)と都(下図)の違いに気付き、「武士のおこり」について考えさせる手掛かりとします。

★ 学習課題の提示

導入資料から読み取った内容を受けて、この見開きページの学習課題を確認し、生徒たちに見通しをもたせます。課題を解決するには、本文と資料とを関連付け、いつ、どこで、誰が、何をしたのかを押さえ、出来事の推移を確認させていくことが大切です。

ここでは、9～10世紀に地方の支配が行き届かなくなり、反乱を鎮める目的で武士がおこり、都と地方を行き来しながら成長していく過程を経たことを本文と資料「武士団のしくみ」「都の武官と侍・兵」から読み取らせます。

第1節 武家政治の成立とユーラシアの交流



★ 地方の有力者の館 (粉河寺縁起絵巻)

どのような人たちが武士といえるのだろうか?

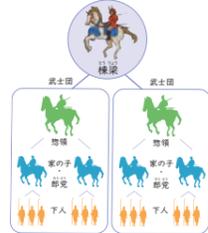


天皇の警備にあたる武士 (平治物語絵巻)

■ 武士の登場

★ 武士はどのようにしておこり、成長したのだろうか。

★ 武士団のしくみ



★ 都の武官と侍・兵

天皇の住まいや役所の警備、犯罪の取り締まりをしていました(侍・兵)。弓矢馬などの武芸に優れ、受領(国司)に任じられる者もいました。地方におもむいた者の中には、任期が終わっても現地にとどまり、有力者となることもありました。

★ 武士のおこり

9～10世紀ごろから、律令制がうまく機能なくなり、土地などを巡って各地で争いが起きるようになりました。朝廷は都の武官(中・下級貴族)や地方の有力者たちを都の警備や地方の反乱をしずめる役職に任命し、武士が登場しました。

都の武士が地方の役人となったり、地方の武士が朝廷や貴族に仕えたりするなど、武士は都と地方を行き来しながら勢力を拡大し、朝廷から認められていきました。やがて、武士は一族の長である棟梁が子や兄弟をまとめ、郎党や下人を従えて武士団を形成していきました。

★ 地方の反乱と武士

力を付けた武士の中には朝廷や役人と対立する者が現れ、関東地方では10世紀中ごろ平将門が、瀬戸内地方では藤原純友が反乱を起こしました。朝廷は、別の武士団を使ってこれらの反乱をしずめたことから、次第に朝廷や貴族から武士の力が認められるようになりました。

★ 図・写真の活用

図や写真の活用により、学習内容についてのイメージをつかみ、内容理解を促すことが大切です。

この「武士団のしくみ」の資料は、本文に書かれている内容「武士は一族の長である棟梁が子や兄弟をまとめ、郎党や下人を従えて武士団を形成」していることと関連付け、本文を補足するために用います。

★ 語句の解説の活用

★ 本文中の語句について解説されている部分では、用語の歴史的な意味が説明されています。本文を読み取る際の助けとするほかに、他の資料と関連付けて用語の意味を理解させるよう指示することが大切です。

ここでは、本文「都の武士が地方の役人となったり、地方の武士が朝廷や貴族に仕えたりするなど、武士は都と地方を行き来しながら勢力を拡大し、朝廷から認められ」たことを補足し、武士が都と地方においてどのような役割を果たしていたのかを説明しています。

※★数字は、内容を活用していく順番(指導の流れ)の例を示しています。



★ 奥州藤原氏の栄華

奥州藤原氏は、11世紀後半から約100年にわたって、砂金や質の良い馬などの交易により栄えました。

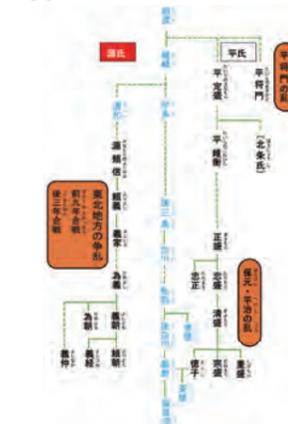
★ 武士の成長と政治

11世紀後半には東北地方で有力者による勢力争いが起こり、大きな戦乱となりました(前九年の役、後三年の役)これらの反乱をしずめた源氏(源義家)は東日本に勢力を拡大し、東北地方では奥州藤原氏が平泉(岩手県)を拠点として成長しました。12世紀には瀬戸内海をめぐっての反乱をしずめた平氏(平忠盛)が勢力を伸ばしました。

★ 荘園と公領 10世紀ごろになると地方の有力者(武士や有力農民)などが土地の開発を進め、国司による税の免除の特権を得るため貴族や寺社に寄進し、荘園としました。開発者は荘園の領主に年貢を納めることで税の免除を受け、支配する権利を認められました。一方、国司が支配する土地(公領)の支配も地方の有力者による土地支配が強まりました。こうした土地を支配する動きが強まるにつれて、争いも多発したことから、自分の土地は自分たちで守っていく考え方が定着していきました。こうした実力で権利を主張することを「自力救済」といいます。

866	藤原良房が摂政になる	1016	藤原道長が摂政になる
884	藤原基経が関白になる	1051	前九年合戦(～62)
939	平将門の乱(～40)	1083	後三年合戦(～87)
939	藤原純友の乱(～41)	1156	保元の乱
		1159	平治の乱

★ 源氏と平氏の系図



★ 確認 武士がどのように成長したか、説明しよう。

★ 確認の活用

見開きページ全体を振り返り、学習課題を解決します。時期や年代、推移、比較、相互の関連などがどうであったか、見方・考え方の視点を例示することでまとめがしやすくなります。見方・考え方の視点を活用ができるようであれば、まとめを行った後でどの視点を活用したのか発問してもよいでしょう。

ここでは、9～10世紀に地方の支配が行き届かなくなり、反乱を鎮める目的で武士がおこったこと、何度も反乱を鎮めていくうちに勢力を伸ばし、荘園や公領の支配にも関わるようになったこと(推移)を説明させます。

★ 地図の活用

学習する時代における重要な場所、出来事(左の例では反乱)、分布などが示されているので、いつ、どこで、何が、どのくらいあったのか、本文を読みながら確認させることが大切です。

★ 年表と関連付けることで「いつ、どこで、何があったのか」が明確になり、時期や年代、推移などの見方・考え方の視点を用いて出来事を捉えさせます。

★ 本文や他の資料を補足する説明の活用

文化財の図版はその時代・その地域の特徴を読み取らせるために用います。

ここでは、なぜ繁栄したのかを問うことで、「砂金や良馬の交易」したことで繁栄したことを理解させます。

★ 年表の活用

年表は出来事の順序を確認するだけでなく、本文と系図を関連付けて、いつ、何が起きていたのか確認させることが大切です。

ここでは、★ 地図や ★ 系図と関連付け、年代ごとの傾向を問い、特徴を考えさせます。

★ 系図の活用

系図は生徒たちにとって読み取りづらいことを想定しておきましょう。

年代と人物を関連付けるよう指示することで、時期や推移が意識させやすくなります。誰がどの出来事に関わったのかについて確認させることも有効です。

終末（まとめる）部分の活用のしかた

★ 1 まとめページの使い方

まとめでは、単元全体の学習内容を大きくとらえさせます。単元を貫く学習問題を確認し、学習内容を整理して関連付けながら、見通しを検証しつつ、学習問題に対する説明を考える活動を行います。

地理的分野では、一部の単元を除き、まとめのページが設けられています。学習した知識やスキルの整理・確認を行う部分と、単元の最初に設定した主題（テーマ）や追究する問題について考えをまとめる部分の2つから構成されていることが多いです。

★ 2 ★ 4 学習内容の振り返り

単元の最初のページにある全体の学習課題と、各見開きページにある学習課題を事前に確認させます。全体の学習課題を考えるために細かい学習課題が並んでいるという構造になっています。この問いの構造を軸とし、個別の学習内容を関連付けて整理することを目指します。

ここでは、★ 2 の学習課題が地域に関する事象（知識）を視点ごとに整理し、関連付けて地域の特色を明らかにするような学習活動を、★ 4 の学習課題は地域の変化とそこから生じる地域の課題を関連付けて整理する学習活動を促しています。学習課題の役割を意識しながら生徒に問いかけ、学習を進めることが重要です。

★ 3 ★ 5 視点を活用した整理

視点を活用しながら、学習課題をもとに事象を整理します。視点ごとに事象のまとまりを作った上で、まとまりどうしの関係を生徒が見だしていけるようにしましょう。

★ 3 の表では、中核的な視点である「人々の生活・文化」の事象と、他の視点である「自然環境」「産業」の事象との関係を、生徒に説明させます。表の形で事象を整理することで、事象どうしの関連を生徒が見つけやすくしています。

★ 6 地域課題の考察

地域の特色の理解が進むと、地域の課題やその解決への取組についても見えてきます。見方・考え方や視点を活用しながら解決の方向性に見通しを持ち、持続可能な社会を考えさせることが、単元のまとめの発展的な内容として重要です。

※ ★ 数字は、内容を活用していく順番（指導の流れ）の例を示しています。

まとめ：東北地方の学習をふりかえろう ★ 1

東北地方の特色ある人々の生活・文化は、他のどのような特色と関係があるでしょうか。★

視点 ★	自然環境	産業（農業・水産業）	生活・文化
学習した内容	広い平野や盆地	盛んな米づくり 例：銘柄米の開発	米の豊作を願う祭り 例：秋田竿灯祭り
	山沿いの扇状地	盛んな果樹栽培 例：山形のさくらんぼ	
	やませ（冷たい）	冷害 品種改良 雑穀栽培	豊作を願う喜ぶ祭り 例：青森ねぶた祭
	寒さが厳しい冬 大雪が積もる地域	そばや小麦、芋類等の栽培 保存食 内職：伝統工芸品 例：塗り物、鉄器	郷土料理の発達 例：稲庭うどん・芋煮 漬物や調味料 出稼ぎ 横手の雪まつり（かまくら）
	潮目 リアス式海岸	漁業や養殖業	神輿が船で渡る祭り 大漁旗

東北地方では、地域の変化によってどのような課題が生じているでしょうか。★

視点 ★	地域の変化	地域の課題
学習した内容や調べた内容	地球環境の温暖化 海流・海水温の変化 気候の変化	伝統的な水産物の漁獲量の減少 農作物の不作や病害虫の被害
	繰り返される自然災害 地震と津波の被害	地域社会の復興 災害に強い社会やまちをつくる
	交通網の整備 工場の進出 農作物や水産物の販売増	伝統的な生活・文化の変化 売れる作物・産物への変化

東北地方の社会が持続可能であるためには、どのような取り組みがよいだろうか。★

例：地域の祭りや食べ物などの伝統的な生活・文化を現代のやり方も取り入れながら守りつつ、それを活かした食品の開発・販売と環境産業の充実とPRを進めていくとよい。

ここでは、まず、自然環境や産業等の視点から東北地方の変化や課題をとらえさせます。その上で、伝統的な産業、生活・文化の良いところを守りつつ、SNSなどのやり方も取り入れ、社会の変化に柔軟に対応しながら課題を解決していく方策を生徒に説明させます。東北地方の特色や変化を踏まえた、具体性のある内容が望まれます。

★ 7 地理的な見方・考え方を意識したまとめ

学習指導要領で示されている5つの見方・考え方（「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存関係」「地域」）を働かせることが、まとめの学習活動では大切です。学習内容を整理したり関連付けたり、地域に関する問いや課題について考えたりする時に、見

方・考え方を意識させることが重要です。

★ 8 まとめの評価

★ 3 ★ 5 ★ 6 を用いて評価します。★ 3 ★ 5 では視点をうまく用いて整理し、関連性をもとに地方の特色を示しているか、★ 6 では特色を生かした課題解決への考えが示しているかを見取ります。例えば、★ 3 ★ 5 では、自然環境、産業と生活・文化の関連を3つ以上の組み合わせから説明できていればA評価、1つか2つの組み合わせで説明できていればB評価とします。

終末（まとめる）部分の活用のしかた

★ 1 まとめページの使い方

単元のまとめでは、単元を貫く学習課題を確認することが重要です。学習内容を振り返り、見通しの確からしさを検証していきます。

歴史的分野では、学習問題について前の時代と比較し、時代の特色を明らかにします。単元の各時間で確認してきたことを読み返すよう指示し、単元の冒頭で学習した見通しを受けて学習内容を振り返り、見通しの確からしさを検証させます。

★ 2 単元最初のページ、各見開きページの問いをふまえた学習内容の振り返り

単元最初のページ、各見開きで示されている問いを確認し、社会の様子や特色にあてはまりそうな内容を記述するよう指示することで、時代の特色として何があげられるのか考えやすくなります。

授業を始める前にこれまでの問いを確認しておきましょう。右の例で言えば、各見開きでは「武家政治の成立とユーラシアの交流」「武士の登場に伴う社会の変化」に関わる問いが設定されているので、それらの問いの答えを視点別にまとめさせます。

★ 3 まとめる視点の明確化

学習指導要領には各時代の特色について○政治の展開 ○産業の発達 ○社会の様子 ○文化の特色などから捉える活動が示されています。これらの項目を板書し、項目ごとにノートやワークシート等にかきせるよう指示することで、まとめる視点の明確になります。まとめる視点をもとにして説明し合うことができれば、多面的・多角的な考察も容易になります。それぞれの項目を関連付けるよう指示し、前後の時代と対比して考察するよう促すことで、★ 5 時代の特色についての説明がしやすくなります。

★ 4 前の時代との比較

ここでは、上でまとめた特色と前の時代（例では古代）の各視点とを見比べて、変化したところ、変化していないところを書き分けるよう指示しておくことで、見方・考え方の視点、継続や変化、特色について説明がしやすくなります。

★ 5 見方・考え方の視点を活用したまとめ

特色をまとめる際、生徒に「見方・

※ ★ 数字は、内容を活用していく順番（指導の流れ）の例を示しています。

まとめ：中世の時代の特色をふりかえろう ★ 1

中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか。★

視点 ★	学習した内容
政治の展開	・院政 ・平氏政権、鎌倉幕府の誕生
産業の発達	・日宋貿易が盛んになる ・二毛作が広がる ・銭が多く用いられるようになる
社会の様子	・武士が登場した ・定期市が開かれるようになった
文化の特色	・鎌倉文化は、貴族らしさと武士らしさの両方がみられる

古代と比べて何が変化し、何が変化しなかったのか整理してみよう。★

例：藤原氏を中心とする貴族が天皇の力を利用して権力をもちた時代から、各地の争いを解決する武士を中心とした権力が登場した時代へと変化した。
例：貴族の文化を残しながら、武士の力強さをもった文化に変化した。

時代の特色をまとめてみよう。★

武士の登場により、土地（領地）を守ることに、広げることでも力をつけていき、領地をめぐる争いも多くなったこととそれのために自分の土地は自分たちで守ることが・・・。

考え方を働かせる活動をしてまとめるよう促します。見方・考え方の視点をキーワードにして考えさせることで説明が容易になります。例えば、諸事象の推移や変化に関わる視点（変化、発達、時代の変化）や事象相互の関連に関わる視点（背景、原因、結果、影響）から見るとどんな特徴があったかなどと発問してみると効果的です。また「どのような視点をを用いることができるだろうか」と問うことで、生徒自らが見方・考え方の視点を設定、活用させていくことができます。

ここでは、武士が登場した背景や影響、その結果として武家政権が誕生したことが関連付けられた説明を引き出すことができるでしょう。また、説明文を記述させることの他に、思考ツールを用いて意見を表したり、SNSアプリを用いて意見交流したりする活動を取り入れることで、他者の説明との比較、自己の説明の再検討が容易になります。

★ 6 見通しの確からしさの検証

単元の導入でもたせた見通しを見返し、実際はどうであったのか問い直すことで、学習の見通しの確からしさを検証させます。

ここでは、節の問い「なぜ武士が政治を行うまで成長し、社会を動かせたのだろうか」について、単元の最初はどうであったかを想起させ、現段階での答えと対比させて確からしさを確認させるとよいでしょう。

★ 7 まとめの評価

時代の特色を導き出した★ 4 ★ 5 を用いて評価します。

★ 4 では前の時代との違いを、★ 5 ではその時代の特色が明確に示しているかを見取ります。政治や産業、社会、文化など複数の面から説明できなければA評価、1つの面からの説明であればB評価とするなど、総括的評価に用いてもよいでしょう。